

平成21年度2月 品川区学力定着度調査
品川区立小中一貫校日野学園の学力向上に向けての取り組み

目 次

結果の分析

- 1 国語4年
- 2 国語7年
- 3 算数4年
- 4 数学7年

今後の指導の基本的な考え

- 1 基本方針
- 2 重点項目
- 3 学校としての対策
 - (1) ステップアップ学習（根っこの時間）における基礎基本の徹底
 - (2) 特別支援教育も含めた多様で個に応じた学習形態の導入と授業の改善
 - (3) 家庭学習の推進
 - (4) 長期休業中の活用（サマースクール・勉強合宿）
 - (5) 小中一貫校の特色を最大限に活用した教育活動による学力の向上
- 4 教科としての今後の改善・対策
 - (1) 国語
 - (2) 算数・数学
- 5 学力の検証方法

結果の分析と今後の対策

・国語 4年の結果

品川区
学力定着度調査

4年
国語

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	活用	解答形式		習熟基準	日野学園 校内平均	問題内容	領域
					選択	記述				
1	1	(1)					80.0	70.1	漢字の読 み	漢字
2							90.0	95.9		
3							95.0	99.0		
4							80.0	86.6		
5							65.0	74.2		
6							80.0	93.8		
7							75.0	79.4		
8							90.0	89.7		
9							70.0	82.5		
10							70.0	54.6		
11			(2)				85.0	73.2	漢字の書き	漢字
12							75.0	62.9		
13							60.0	68.0		
14							80.0	83.5		
15							70.0	84.5		
16							50.0	10.3		
17							80.0	83.5		
18							85.0	81.4		
19							75.0	80.4		
20							50.0	37.1		
21	2	(1)				60.0	68.6	文法に関 する知識	言語事項	
22		(2)				70.0	88.6			
23		(3)				90.0	94.3			
24		(4)				55.0	62.9			
25		(5)				90.0	97.1	語句に関 する知識	言語事項	
26		(6)				85.0	88.6			
27		(7)				75.0	91.4			
28		(8)				60.0	91.4			
29	3	(1)				90.0	94.3	文学的な 文章の読み 取り	文学的文 章	
30		(2)				85.0	65.7			
31		(3)				75.0	88.6			
32		(4)				75.0	85.7			
33	4	(1)				85.0	77.1	説明的な 文章の読み 取り	説明的文 章	
34		(2)				80.0	62.9			
35		(3)				75.0	85.7			
36		(4)				85.0	94.3			
37		(5)				65.0	62.9			
38	5					75.0	82.9	作文	作文	
39						65.0	57.1			
40						65.0	22.9			
41						75.0	60.0			

・国語 7年の結果

品川区
学力定着度調査

7年
国語

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	活用	解答形式		習熟基準	日野学園 校内平均	問題内容	領域
					選択	記述				
1	1	(1)					90.0	87.8	漢字の読 み	漢字
2							80.0	99.2		
3							90.0	97.6		
4							75.0	87.8		
5							70.0	69.1		
6							90.0	89.4		
7							90.0	98.4		
8							80.0	65.9		
9							70.0	90.2		
10							80.0	98.4		
11			(2)				80.0	74.0	漢字の書き	漢字
12							70.0	68.3		
13							50.0	42.3		
14							60.0	67.5		
15							60.0	74.0		
16							50.0	73.2		
17							60.0	33.3		
18							60.0	61.8		
19							60.0	71.5		
20							50.0	52.8		
21	2	(1)				60.0	77.2	文法に関 する知識	言語事項	
22		(2)				50.0	81.3			
23		(3)				60.0	72.4			
24		(4)				70.0	91.9			
25		3	(1)				60.0	80.5	語句に関 する知識	言語事項
26			(2)				65.0	84.6		
27			(3)				80.0	52.8		
28			(4)				50.0	34.1		
29	(5)					50.0	20.3			
30	(6)					70.0	83.7			
31	4	(1)				75.0	82.9	文学的な 文章の読み 取り	文学的文 章	
32		(2)				70.0	86.2			
33		(3)				70.0	68.3			
34		(4)				70.0	78.0			
35		(5)				70.0	78.0			
36		(6)				70.0	78.0			
37		(7)				70.0	69.1			
38	5	(1)				80.0	72.4	説明的な 文章の読み 取り	説明的文 章	
39		(2)				70.0	83.7			
40		(3)				50.0	74.8			
41		(4)				50.0	32.5			
42		(5)				70.0	70.7			
43	6					75.0	82.1	作文	作文	
44						60.0	72.4			
45						65.0	42.3			
46						65.0	68.3			

・算数 4年の結果

品川区
学力定着度調査

4年
算数
数学

通し 番号	大問 番号	中間 番号	解答形式		習熟基準	日野学園 学年平均	問題内容	領域
			選択	記述				
1	1	(1)			90.0	99.0	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
2		(2)			90.0	97.9		
3		(3)			90.0	95.9		
4		(4)			90.0	87.6		
5		(5)			80.0	95.9		
6		(6)			80.0	94.8		
7	2	(1)			90.0	96.9	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
8		(2)			90.0	100.0		
9		(3)			90.0	95.9		
10		(4)			70.0	90.7		
11	(5)			70.0	87.6	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算	
12	3	(1)			90.0			94.8
13		(2)			80.0			94.8
14		(3)			80.0			90.7
15		(4)			70.0			85.6
16		(5)			70.0			88.7
17		(6)			70.0	83.5		
18	4	(1)			70.0	83.5	数量関係	数量関係
19		(2)			70.0	93.8		
20		(3)			60.0	82.5		
21	5				90.0	92.8	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
22	6				80.0	88.7	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
23	7				80.0	87.6	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
24	8				70.0	80.4	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
25	9				70.0	75.3	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
26	10				90.0	91.8	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
27	11				80.0	91.8	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
28	12				60.0	73.2	数と式の意味 と計算	数と式の意味と計算
29	13	(1)			90.0	92.8	量と測定	量と測定
30		(2)			70.0	78.4		
31	14	(1)			70.0	88.7	図形と計量	図形と計量
32		(2)			80.0	94.8		
33	15				70.0	86.6	量と測定	量と測定
34	16				70.0	88.7	図形と計量	図形と計量
35	17				70.0	78.4	図形と計量	図形と計量
36	18	(1)			80.0	80.4	図形と計量	図形と計量
37		(2)			70.0	86.6		
38	19				70.0	83.5	図形と計量	図形と計量
39	20	(1)			70.0	96.9	図形と計量	図形と計量
40		(2)			80.0	92.8		
41	21				90.0	95.9	資料の分析	資料の分析
42	22				80.0	88.7	資料の分析	資料の分析
43	23	(1)			60.0	87.6	資料の分析	資料の分析
44		(2)			50.0	82.5		

・数学 7年の結果

品川区
学力定着度調査

7年
算数
数学

通し 番号	大問 番号	中間 番号	活用	解答形式		習熟基準	日野学園 学年平均	問題内容	領域
				選択	記述				
1	1	(1)				80.0	91.9	数量関係	数量関係
2		(2)				90.0	99.2	数と式の意味と計算	数と式の意味と計算
3		(3)				80.0	75.8		
4		(4)				80.0	80.6		
5		(5)				75.0	90.3		
6		(6)				70.0	83.9		
7	(7)				65.0	73.4	数量関係		
8	2	(1)				80.0	87.9	数と式の意味と計算	数と式の意味と計算
9		(2)				80.0	95.2		
10		(3)				70.0	81.5		
11		(4)				80.0	92.7		
12		(5)				70.0	83.9		
13		(6)				80.0	91.1		
14		(7)				65.0	81.5		
15	3	(1)				70.0	76.6	数と式の意味と計算	数と式の意味と計算
16		(2)				70.0	91.9		
17		(3)				60.0	85.5		
18	4	(1)				70.0	88.7	数と式の意味と計算	数と式の意味と計算
19		(2)				70.0	83.9		
20	5	(1)				80.0	91.9	数と式の意味と計算	数と式の意味と計算
21		(2)				60.0	61.3		
22	6					65.0	44.4		数と式の意味と計算
23	7	(1)				75.0	83.9	数と式の意味と計算	数と式の意味と計算
24		(2)				60.0	83.1		
25	8					75.0	83.9	資料の分析	資料の分析
26	9					50.0	69.4	資料の分析	資料の分析
27	10					60.0	78.2	数量関係	数量関係
28	11	(1)				60.0	46.0	数量関係	数量関係
29		(2)				80.0	84.7		
30	12					60.0	44.4	数量関係	数量関係
31	13					60.0	55.6	数量関係	数量関係
32	14	(1)				80.0	86.3	図形と計量	図形と計量
33		(2)				75.0	87.9		
34	15	(1)				75.0	83.9	図形と計量	図形と計量
35		(2)				80.0	89.5		
36	16					60.0	96.8	図形と計量	図形と計量
37	17					60.0	70.2	図形と計量	図形と計量
38	18					65.0	71.0	図形と計量	図形と計量
39	19					80.0	68.5	図形と計量	図形と計量
40	20					60.0	57.3	図形と計量	図形と計量
41	21					75.0	72.6	図形と計量	図形と計量
42	22					60.0	79.8	図形と計量	図形と計量
43	23					60.0	51.6	図形と計量	図形と計量
44	24	(1)				60.0	72.6		資料の分析
45		(2)				50.0	65.3		

1 「学力調査」をふまえた4年国語の結果と分析

(1) 結果の概要

区の習熟基準と比較すると41問中15問において、下回った。習熟基準を下回った設問は、漢字の読み3問、書き5問、文学的文章に関する内容が1問、説明的文章の読み取りに関する内容3問、作文が3問である。全体的に概ね定着しているが、比較的劣っているといえるのは、文学的文章の読解力、説明的文章の読解力、作文である。

(2) 結果の分析と解説

【漢字】読みについては、字によって習熟基準を下回っているものもあるが、概ね定着している。しかし、書き取りについてはほとんどが習熟基準を下回っている。

【言語事項】文法に関する知識、語句に関する知識ともに、習熟基準を大きく上回るものが多く、大変満足できる状況であった。

【文章の読解】文学的文章の問題については、概ね満足できる結果であったが、叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることが苦手であった。説明的文章は、細かい点に注意して読むことや中心となる語や文をとらえて、段落の要点をとらえる力がもう一步であった。

【作文】区の習熟基準を下回っている項目が多く、記述式に苦手な傾向が見られる。

(3) 結果から明らかになった課題

【漢字】読みに比べると書き取りの方が、正答率が低く定着していない。学習方法に改善が求められる。

【文章の読解】文学的文章は、叙述をもとに場面の様子をとらえながら文章を読むことが課題である。説明的文章では、段落相互の関係を考えながら、文章を読むことが課題である。また、文章の細かい点を読みながら、内容を大きくまとめていく力が必要となってくる。

【作文】考えが明確になるように段落相互の関係を考えること、書く必要のある事柄を収集したり選択したりする力を身につけなければならない。

2 「学力調査」をふまえた7年国語の結果と分析

(1) 結果の概要

46問中30問において、区の習熟基準を上回った。問題内容別に見てみると、漢字の読み、書きともに下回る問題はあったが、概ね習熟基準と一致している。文法に関する知識では、全て基準を上回る結果となった。一方、語句に関する知識では大幅に基準を下回る結果となった。文学的文章の読み取りに関する内容、説明的文章の読み取りに関する内容でも、習熟基準を下回る問題もあったが、ほぼ一致あるいは大きく上回る問

題が多くあった。

(2) 結果の分析と解説

【漢字】漢字の読みに関しては、習熟基準を大きく上回るものが多く大変満足できる状況であった。

【言語事項】文節や接続語など文法事項に関しては大変満足できる結果であった。しかし、多義語・熟語・四字熟語・慣用句など語句に関する問題に関しては、正答率の低い問題が目立ち、今後課題が残った。

【文章の読解】文学的文章の読み取りは比較的正答率が高く、特に登場人物の心情の読み取りの正答率が高い。

【作文】全体としては、概ね満足できる状況であった。

(3) 結果から明らかになった課題

【漢字】漢字の書きの正答率が低い。低学年で学習した漢字が区の習熟基準を下回っている。

【言語事項】文全体の主語を見分ける問題、修飾・被修飾の関係を理解する問題、敬語の使い方を理解する問題に関しては正答率が高く、知識の定着がみられた。今後学ぶ内容（自立語・付属語、用言の活用など）で、今までの知識を活かした学習ができるかが課題となる。

【文章の読解】説明的文章の問題の正答率はよいが、記述問題の正答率が比較的低かった。文章の展開に即して、内容を正確にとらえて適切な語句を選んだり、適切に書き表したり、語彙、文法なども含め、総合的に力を付けていかなければならない。

3 「学力調査」をふまえた4年算数の結果と分析

(1) 結果の概要

全ての領域で習熟基準を上回っており全体的に定着しているといえる。特に「数量関係」「図形と計量」は大きく上回っている。ただし、個人差が大きく未定着の児童と、定着の児童との差が大きい。また、学習に関するアンケートからは「ある問題が解けた時、別の解き方も考えてみる」「算数で習ったことを身の回りで起きていることとむすびつけて考えるようにしている」という設問での定着度が高くなかった。今後は今身に付いている基礎基本を土台にし、自ら考えて問題を解く学習を多く取り入れ、多面的な視点をもって算数に取り組んでいく児童を育てる。

(2) 結果の分析と解説

【数と式の意味と計算】習熟基準を上回っている。小数÷整数の除法筆算で平均を下回った。

【数量関係】四則混合の計算における正答率は、習熟基準を上回っている。とくに、() を含む四則混合の式の計算は正答率が高く、計算方法、計算のきまりが身に付いている。

ただし、ある時刻から一定時間を経過した時刻を求める問題では区平均を下回った。

【図形と計量】概ねどの問題も習熟基準を上回る正答率であった。ただし作図問題では区の平均を下回った。

(3) 結果から明らかになった課題

【数と式の意味と計算】小数(小数第一位)÷整数の除法では区の平均を下回った。小数点をつける位置等確認させる必要がある。

【図形と計量】作図することに苦手な傾向が見られた。

4 「学力調査」をふまえた7年数学の結果と分析

(1) 結果の概要

45問中36問において、区の習熟基準を上回った。特に「数を式の意味と計算」「資料の分析」ではほぼ全ての問題において習熟基準を上回っている。それに対して、「数量関係」と「図形と計量」では習熟基準を下回る問題があった。「数量関係」では比例反比例の関係の理解、「図形と計量」では立体の展開図や投影図のよみとりなどに課題がある。今後、これらの内容を重点的に指導し、数量の関係や空間的な図形の位置関係などを多面的にとらえる力を養っていく必要がある。

(2) 結果の分析と解説

【数と式の意味と計算】正負の数や文字式の計算問題、方程式では、すべての問題において習熟基準を上回っていた。授業内に行っている反復練習や補習の成果が表れたと考えられる。しかし移行措置内容である不等式では習熟基準は下回っていた。速さの関係の理解と不等号のよみとりの理解が不十分であることが分かった。

【資料の分析】全ての問題で習熟基準を上回っていた。樹形図をかき組み合わせの数を求めたり、割合を求めたりする問題は習熟基準に対して正答率が比較的高かった。

【数量関係】比の問題や、比例関係を用いて1つの量から他の量を求める問題では正答率が習熟基準を上回った。しかし、比例する関係をいろいろなものの関係から選択したり、比例・反比例の式やグラフを選択したりする問題は習熟基準を下回った。

【図形と計量】三角形や四角形の角の性質や面積の問題、図形の対称移動など平面図形分野ではすべての問題で習熟基準を上回った。空間図形分野では角柱・角錐の体積に関する問題では習熟基準を上回ったが、立体の展開図からある頂点と重なる点を判断する問題や投影図の選択の問題などでは習熟基準を下回った。

(3) 結果から明らかになった課題

【数と式の意味と計算】速さの関係を表した不等式の関係の読み取りが習熟度を下回った。速さの問題と不等式の読み取りをそれぞれ重点的に指導する必要がある。

【数量関係】比例・反比例関係の理解やそれらをグラフや式に表すことに課題がある。今

後、1次関数(8年)や関数 $y=ax^2$ (9年)など様々な関数を学習していく中で、丁寧に復習し反復練習を行い、日常生活の中にある様々な数量関係をとらえられるようにする。また数量関係を式やグラフで表すことの良さを感じられるようにしていく。

【図形と計量】空間図形の分野での習熟度が低かった。面積や体積などの図形の計量問題は授業でも重点的に取り組み、比較的よく理解できていたが、立体から展開図や投影図をとらえたり、図形を移動したときの頂点の軌跡を求める問題では課題が見られた。

今後の指導の基本的な考え

1 基本方針

小中一貫教育カリキュラムに基づき、9年間の学習活動を通して、基礎基本の定着と応用力を高めていく。まず、1～4年は、基礎基本の定着を徹底させる。次に、5～7年では、一貫校の特色である教科担任制を緩やかに導入し、専門性を生かした指導によって、基礎基本のさらなる定着と発展的な学習の基礎となる力を付けていき、さらに、8・9年は、基礎基本を確実なものとし、発展学習に取り組む態勢を構築していく。そのため8年生では、夏季休業中に3泊4日の勉強合宿を行い、学習内容の総復習と自己の課題に応じた学習ができるようにする。

また、豊かな人間性を身に付け、社会性を育むために、市民科の授業を充実させるとともに、学級・学年での活動、小中一貫校ならではの異学年交流、学校行事などを実施することで、多面的な学力と豊かな心を育てていく。

2 重点項目

- ・小中一貫教育カリキュラムの実施と教科担任制の実施。
- ・都・区講師の適正な配置と活用。
- ・ステップアップ学習（根っこの時間）による基礎基本の確実な定着。
- ・習熟度別学習、少人数学習、個別学習など様々な学習形態の展開。特別支援教育の推進。
- ・家庭学習の推進と自学自習の体得。
- ・8年生による勉強合宿の実施。
- ・漢字や計算コンクール、スペリング（英単語）コンテストの実施。
- ・小中一貫校の特色を最大限に活用し、豊かで多面的な学力と豊かな心の醸成。

3 学校としての対策

(1) ステップアップ学習（根っこの時間）における基礎基本の徹底

1～9年すべての学年において、帯の時間（30分・20分）を設定することで、小刻みな学習の積み上げによる基礎基本の徹底を図る。

1～4年は、根っこの学習として毎日30分設定し、国語・算数・英語の指導を行う。国語では、漢字の読み・書き、算数では基本的な計算を繰り返し学習することで基礎基本の確実な定着を図る。また、英語では歌やゲームなどの活動を通して、発話することに重点を置き、英語に親しめるよう指導を行う。

5・6年では、ステップアップ学習として毎日20分設定し、国語・算数の指導を中心に行う。それぞれの教科での基礎基本を徹底して学習し、定着させる。

7年以上では、5教科について、小学校での学習の基礎基本を振り返って学習するとともに、すべての教科の基礎基本を徹底させていくようにする。

学力調査では、児童生徒の漢字の書き取りや計算などの正確さに欠けることが指摘されている。その点を改善していくように十分配慮しながら、指導していく。

(2) 特別支援教育も含めた多様で個に応じた学習形態の導入と授業の改善

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習形態を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

(3) 家庭学習の推進

学力向上と自学自習の体得を目指し、全校体制で家庭学習を推進していく。家庭学習の手引書を各学年作成し、全校保護者会で配布し、全家庭に協力を仰ぐ。家庭学習の手引書には、時間の目安（学年×15分程度）・学習内容・家庭学習のポイントなどを分かりやすく明示していく。1年～4年では、宿題を中心とした学習、5年～7年では、宿題と自分の課題（苦手な分野・予習・復習など）に沿った学習、8・9年では自分の目標（高校受験など）に沿った学習が行えるよう指導し、9年間を通して自学自習する力（自分の目標に向かって計画的・継続的に学習する力）を身に付けさせる。また、連休・面談期間・長期休業などの前には、家庭学習の課題を全学年配布し取り組ませるようにする。

(4) 長期休業中の活用

長期休業中には、学年の発達段階に応じた学習の課題を設け、家庭学習の時間を確保する。また、夏休みには全学年サマースクールを開講し、復習教室や自習教室などを開き、個別指導に重点を置いて学力定着に努める。さらに、8年生では3泊4日の勉強合宿を実施し、学習内容の総復習と自己の課題に応じた学習ができるようにする。

(5) 小中一貫校の特色を最大限に活用した教育活動による学力の向上

本学園では、小中一貫校のよさを生かした教育活動を展開する。5年生から教科担任制を緩やかに実施し、教師の専門性を生かしていくことで学力の向上を図る。また、一貫校では小中教員の共同体制で、1～9年間のきめ細かな指導を展開していく。

さらに、1～4年ブロック、5～7年ブロック、8・9年ブロックでのまとまりを生かした学習活動を重視し、ブロックの教員がなお一層の連携を図り、各教科においても系統性を考えた教科指導を行っていく。

校内研究においては、全教員が年間1回以上の研究授業を行い、授業の改善を図ることで、児童生徒の学力を向上させていく。その際には授業力診断シートを活用し、指導方法や児童生徒への支援のあり方を具体的に探っていく。また、授業でのあいさつや返事・聞き方や話し方などの授業規律を全学年徹底的に確立していくことで、学力向上の素地を築いていく。

また、9年生については、受験を見据え、どのようにして学力を伸ばしていくのか、各教科の担当者が明文化して保護者に示し、常にその方策を意識して授業を構成、実施していく。

4 教科としての対策

(1) 国語科

平成22年度第5学年

・漢字ステージを活用しての反復練習

ステップアップ学習で漢字ステージを使用して漢字練習を行う。書き順、はらいや点の位置など間違いやすい箇所に注意しながら細かく指導していく。丁寧に集中して書く事を意識して、漢字集中反復練習の時間を10分以上とる。また、家庭学習として新出漢字を毎日4文字学習させる。その際、漢字ノートに熟語、当該漢字を使用した文を考えさせ、文章力の育成にもつなげる。また、関連学習として漢字の成り立ちや同音異義語などを調べさせ、多くの漢字を習得できるようにさせる。提出された漢字ノートは細かいところまでチェックし、をつけ、評価をして返す。間違えたところには付箋を貼り、間違いやすい漢字として後日確認しやすいようにする。定期的に漢字テストを行い定着度を測る。テストは漢字ファイルとしてまとめ、積み重ねが形として残るようにする。国語の授業だけに限らず、学習した漢字を日常生活の中で使用するよう、学習ノートの点検を定期的に行い指導する。また、こまめに辞書を引いて確かめる習慣を付けるように授業でも工夫する。語彙力の育成を目標に、さまざまに辞書を引く場面を設定して指導する。

・作文指導

毎日、設定されたテーマについて五行作文を書く宿題を出し、翌日に添削し返却する。添削の際は、テーマに合わせて、きちんと自分の意見をまとめて書いている箇所はアンダーラインを引くなどして、後から読み返したときに確認させる。

平成22年度8学年

- ・ステップアップ学習 で漢字ステージを使用して5年生からの漢字を総復習する。既習漢字でも繰り返し学習することにより、定着率を高めるとともに、漢字コンテストなどで合格基準を8割とし、補習課題や再テストを行い全体の定着を図る。また、授業の中でも小テストを行うことで、漢字を徹底的に覚えさせる。
- ・毎日の授業において、主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係や難語句の意味・使用法などを適宜確認することで、身近なものとして理解、定着させるよう指導する。
- ・文学的文章の指導（全学年）
常に、主語述語の関係、段落相互の関係を意識させながら文章を読ませる。また、文章を書く作業を通して、主語述語の関係、段落相互の関係を意識させながら文章を書かせる。さらに、叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることを常に意識して取り組ませる。文章中のさまざまな表現から登場人物の行動や心情を読み取り、全体の内容も把握するような学習を文学教材の学習において重点的に行う。
- ・図書時間を充実（1 - 6 学年）
朝読書を通じて文章に慣れる。読書への関心を高め、読書カード等を活用して、読書量を常に把握し、個々の読書量の目標を決め、取り組む。
- ・説明的な文章の読み取りでは、要約する力をつける。文字数を指定して、文章にまとめる力をつける。読み取った説明文を実際に言葉として発表できるよう表現の面でも指導する。
- ・作文の指導（全学年）
自分の伝えたい事柄を明確にし具体的に表現できるようにスピーチをさせる。また、内容に応じて自分の考えをまとめ表現できる力が身に付くよう、課題作文を取り入れ文章を書く機会を多く与える。

（2）算数・数学科

平成22年度第5学年

- ・数と式の意味と計算の指導
文章問題では数直線を用いて文章を図式化してから解かせる。また、立式の意味、立式の理由を文章化し、説明させることで思考力を育む。
- ・計算の指導
3けたの減法、除法の筆算を反復練習させる。筆算などの計算式をしっかりと残し、検算や確かめを行わせる。
- ・数量関係の指導
身近にある入れ物や、物を活用し量感を育む体験的な活動を多く取り入れる。現在ではデジタル時計が普及しており、時刻の加減はイメージをもちにくくなっているが、学校ではアナログ時計を使用し、時間前、時間後を求めることや、アナログ時計のよさ、使い方を日常生活の中で継続的に指導していく。
- ・図形と計量

視聴覚教材などを活用してより立体的、視覚的にとらえさせる。

- ・資料の分析

他教科（特に社会科・理科）との関連を図りながら、グラフの読み取りが身近なものになるよう指導していく。

- ・算数の学習成果を掲示する。既習事項のまとめだけでなく、数直線や図表を活用した問題解決の方法を掲示していくことで、児童に数学的な考え方を意識させるようにする。

平成22年度第8学年

- ・数と式の意味と計算の指導

ステップアップ学習 を活用して、計算の反復練習を行い、確実に定着できるようにする。

- ・数量関係の指導

X、Yを利用した式の表し方や式をグラフに表すことなど、基本を確実に定着させ、日常の中にある数量関係を数学的に捉えられるよう具体的な例をあげ指導していく。

- ・図形の指導

図形の読み取りを確実にするため、生徒が自分で図を描かせる設定したり、立体模型を使用して視覚的に捉えさせたりして、定着させていく。

- ・資料の分析

他教科（特に社会科・理科）との関連を図りながら、グラフの読み取りが身近なものになるよう指導していく。

- ・小テストを定期的実施し基礎基本を確実に定着させていく。

5 学力の検証方法

(1) 検証の方法

対策を講じた結果は、単元や学習のまとめりごとに行うまとめテストや中間、期末等の定期考査等で検証をする。

さらに、毎年5月に実施する校内標準学力テストで、年度をまたいだ成果について検証をする。

(2) 結果の発表

検証した結果は、各学期末の保護者会や日野学園の Web-Page で、全体的に説明するだけでなく、学年だより等でも全体的な傾向について、発表していく。さらに、個々の児童生徒に対して、答案の返却、個人成績連絡票、通知表等で、詳しく説明する。

最後に、学力の定着と向上には、徹底した学習規律の確立が大前提である。返事やあいさつ、話を聞く態度や話をする姿勢など学校全体で共通した指導を今後も引き続き行い、学習する雰囲気をもさらに高めていく。また、学校公開時の保護者アンケートや研究授業時の授業診断シートなどに学習規律の項目を設け、全教員が一丸となって取り組めるようにする。また、学校の授業だけでなく、家庭での学習も大切である。学校と家庭とのより密接な連携を図り、個々の児童生徒に応じた学習指導を今後も展開していく。